

和泉そぞろ

Izumisozoro

日本最大級の弥生遺跡！池上曾根を訪ねて -油池跡、幻の池上神社から「いずみの高殿」まで-

12 曾根神社（和泉大津市）

社伝では天武天皇4年（675）創建で物部一族「曾祢連」が祖靈を祀ったといいます。祭神は曾根連・物部氏の祖「饒速日命（にぎはやひのみこと）」「伊香我色雄命（いかがしこのみこと）」などです。『和泉名所図会』では天神社と記録され、境内に神牛像が残っています。池上村の氏神（池上神社、上泉神社）も合祀されています。また戦国時代に活躍した和泉三十六郷士のひとり・玉井壹岐守源秀が築いた曾根城があったといいますが詳細不明です。

11 池上曾根遺跡

明治36年（1903）、当時14歳の南繁則が自宅の土塹（池上曾根遺跡周辺の土を使っていました）から石鎚を発見しました。教師から古代の遺物と教えられて興味を持ち、自宅周辺で石器・土器を収集はじめ、大正10年（1921）には長頸壺を発掘。その後も坪井正五郎、鳥居龍藏といった著名な学者を招き、遺跡保全活動に生涯を捧げました。発掘調査が進むと池上町と曾根町にまたがる南北1.5キロ、東西0.6キロ、総面積60万平方メートル（東京ドーム13個分）に達する弥生時代中期の大集落遺跡と判明し、昭和51年（1976）に国史跡に。「やよいの大井戸」（巨大丸太くりぬき井戸。直径2m、深さ1.2m。樹齢700年の木による一木造）、「いずみの高殿」（高床式大型建物。使われていた柱が年輪年代測定法調査で紀元前52年伐採と判明）などが復元されています。

10 池上曾根 弥生情報館

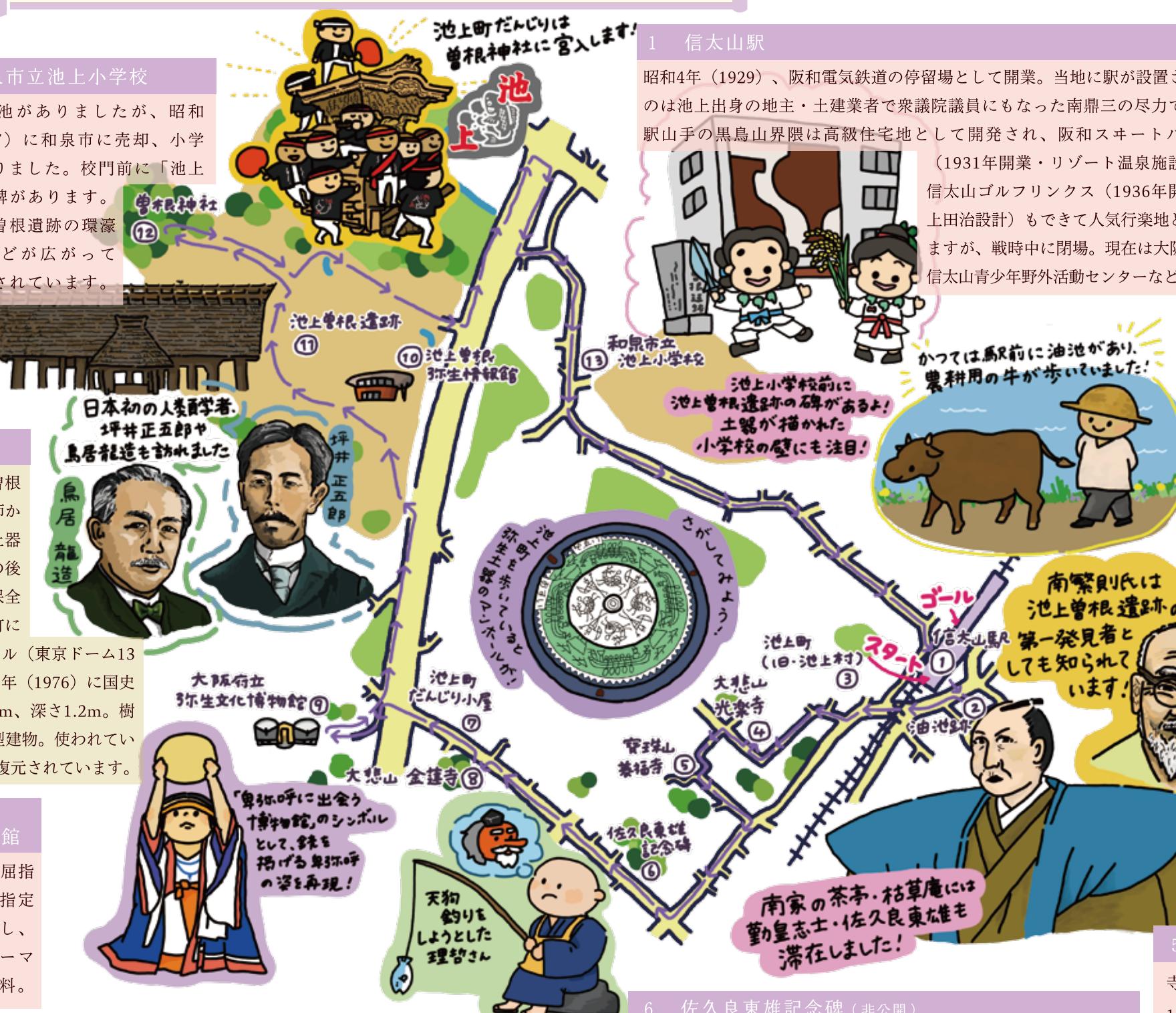
池上曾根史跡公園のインフォメーションセンターです。池上曾根遺跡の情報発信や見学者の受付案内を行っています。無料。

8 大悲山 金蓮寺

開創時期は不明ですが、平安末期と推測される大日如来の梵字が刻まれた古瓦が出土しています。信長の兵火で焼失したという伝承もあります。寛文（1661～1673）頃に庄屋・南清太夫と縁があった龍頭和尚が中興の祖となりました。文政（1818～1830）頃に理哲という住職が村人に「天狗など迷信である」とわからせるために釣竿に干物をつけて大峰山で天狗吊りをしたといいます。

13 和泉市立池上小学校

かつて千草池がありましたが、昭和52年（1977）に和泉市に売却、小学校用地となりました。校門前に「池上曾根遺跡」碑があります。周辺は池上曾根遺跡の環濠や周溝墓などが広がっていたと推測されています。



池上曾根遺跡の第一発見者は地元在住の南繁則氏でした。南家は江戸時代から続く池上の旧家で、幕末には志士・歌人の佐久良東雄が来訪し、戦後も著名な学者が訪れています。信太山駅から池上曾根遺跡周辺を巡ります。

2 油池跡（駅前ロータリー）

江戸時代、池上村には油池、千草池、菱池、今池と多くの溜池がありました。油池は昭和43年（1968）に売却され、現在は信太山駅前ロータリーです（売却金は池上公民館の建設費になりました）。油池には弁天山という小山があり、太い榆の木が2本あり、石棺や陶器、石製の枕などが出てきて古墳だったという記録があります。

3 池上町（旧・池上村）

江戸時代の池上村は「本郷」（屋敷地）は大和小泉藩、「出作」（耕作地）は和泉伯太藩が支配し、本郷の庄屋は本家の南甚左衛門家、出作の庄屋は分家の南角右衛門家が世襲していました。明治9年（1876）調査で戸数70戸、村人286人（男141人、女145人）、牡牛22頭、牡牛1頭の記録があります。明治初期に池上村在住の神山喜代松が堺でガラス工芸を学び、それを村民に伝え、池上の特産となりました。

4 大悲山 光楽寺

河内丹北郡我堂村の善正寺の道場であったという記録があります。道場時代には「ゼンモ」と呼ばれる長老がいたといいます。正徳2年（1712）に横田監物（本願寺家臣）の名で寺号と木仏が与えられ、元和（1615～1624）頃の過去帳も現存し、400年近い歴史を誇ります。

5 寶珠山 養福寺

寺伝では元禄元年（1688）開山。文政（1818～1830）頃は二間梁の小寺で、近くには「小寺脇」という小路や「小寺」姓の家もあったといいます。本堂は明治の神仏分離令で廃寺された堺・百舌鳥八幡宮の神宮寺を移転・再建したものです。寺宝に狩野探幽門下で薩摩藩御用絵師になった桃田柳栄（1647-1698）の『仮涅槃図』があります。柳栄は池上村出身（諸説あります）で庄屋・南清太夫（甚左衛門家の先祖）の推挙で大和小泉藩・片桐公の小姓となり、江戸で修業しました。池上には分家の子孫が今も在住で桃田姓の家も残っています。